

しゃぼんだま

3年 学年通信5号

令和7年7月6日

文責 森本 聡

偏差値ってなんだ？

「〇△高校の偏差値ってなんぼですか？」とよく生徒に聞かれます。「で、偏差値って何？」ってきかれても実際なんだかよく分からない人も多いと思いますので説明しましょう。

実力テストや入学試験は、難易度や成績ごとの分布の状態が毎回変わります。前と同じ点数でも、試験が超難しかった場合は実際の成績は上がっているはず。平均点が変わらなくても、80%以上得点している人がほとんどいないようなテストで85点とちゃたらたとえ前と同じ点数でも実際は成績が上がっているはず。こういった特性を反映したものが偏差値です。

偏差値は母集団ごとに存在します。校内だけの偏差値 全国模試なら全国偏差値 高校なら国立理系集団の中での偏差値 や 私立文系集団の中での偏差値など 母集団が違うなら比較するのはナンセンスです。

算出方法は

$$50 + 10 \times \frac{\text{自分の得点} - \text{平均点}}{\text{標準偏差}}$$
 で計算します。

平均点のひとは50です。(もちろん × と ÷ は先に計算してね。)

実力テスト(学力診断テスト)は 入試と同じようなテストを想定し、平均点は全国の水準で250点程度、また標準偏差は95~120程度(これは散らばり具合を表す)になるように設計されています。校内平均は無視して計算し参考にしてください。

私立高校の受験には参考になるかもしれませんが、試しに平均250点 標準偏差105か110くらいで一度計算してみましょう。全国規模での自分の成績がおよそながらわかるでしょう。

公立高校の場合、偏差値はまるであてになりません。なぜかって 学力テスト250点以外に調査書点144点を加えなければ判定できないからです。調査書点140点の人と80点の人とでは同じ合格点に到達するためには必要なテスト点が違うでしょ。だから今学期の通知表をもらったなら調査書点を計算しておきましょう。

脱「スタンプラリー型」の生き方 夏休みに何かが変わる人はわずか

中学生でもおとなでも、わたしたちが学業や仕事でよりよく成長していくために必要なことをお話ししましょう。

勉強や仕事・トレーニングをするときに、言われたことを例年通り・指示通りに文句を言われないうちにこなすのを最良の仕事だと考えている人はいます。やらないよりは良いでしょうけど、そこには工夫も研究もイノベーションもなく、ただやったという「アリバイ」づくりに終始する人たちです。今後 AI に仕事を奪われる人の典型です。

彼らの作り出すものは、「例年通り」・「見本と同じ」ばかりでまったくおもしろくありません。

自動車会社ホンダの創業者本田宗一郎ほんだそういちろう氏の口ぐせは「どこがよそと違うんだ？」とか「それはどこが新しいんだ？」だったそうです。デザイナーやエンジニアにとっては「パクリ」は恥(はじ)です。

勉強もスポーツも、今の自分に足りないものはなにか、すこし問題の数値やパターンをいじられても対応できるか、より鮮やかな解法はないのか、などについて自分なりにオリジナルの試行錯誤をくり返しましょう。夏休みに何かが変わる人になるためには必須です。

宿題やワークを提出したという事実を積み重ねるのが努力だと考えている人たちを、「スタンプラリー型」と社会では呼んでいます。はんこを集めることが目的化して、本来の解決につながるのか(本物の力がついてるか)という、目的を見失ってしまう典型的なパターンです。

たとえ、高校へ楽勝でいけたとしても、その後にくるかもしれない(たぶんくる)「AI 就職氷河期」に立ち向かえる力は自分で考えてつけるしかありません。現状を変えたいなら今変わらないとだめです。明日からじゃなく今からです。

やらされ感是不幸の始まり

★サイトを変更します

学年サイト・行事予定・進路の情報 8月までは旧サイトで

新サイト URL 9月から運用します →

<https://sites.google.com/e-net.nara.jp/higashi-jhs/r7g>

